

サルナシ(コクワ)

Actinidia arguta

マタタビ科



サルナシ。右は実

名前の由来

ナシに似た果実をサルが好んで食用することから。「ナシ(梨)」は①ナカシロ(中白)の略、②風があると実らないことから「風なし」から、③ナス(中酸)の転、④奈子の字音、⑤ネシロミの転、⑥アマシ(甘)から、などの説がある。コクワは小さいクワ(桑)の意か。漢字名：猿梨

形態的特徴

山林中に生え、落葉つる性木本。雌雄異株。葉は楕円形～広楕円形で長さ5～12cm、基部は円～やや心形、刺状鋸歯縁、光沢あり。葉柄(葉の付け根)は長さ2～8cmでしばしば淡紅色を帯びる。互生する。花は雄花と両性花がある。径1.5～2cmで白色、花弁5。6～7月開花する。果実は広楕円形長さ約2cm、9～10月に熟し緑黄色になる。

類似種との見分け方：サルナシの葉は光沢があり葉柄は長く長いが、ツルウメモドキの葉は光沢がなく、葉柄が短く赤くない。またサルナシの樹皮は大きな切片で剥がれる。マタタビやミヤママタタビの葉は、表面が濃緑色で時に白やピンク色になる。



サルナシの雄花



サルナシの両性花



サルナシの実。約2cm。おいしい



サルナシの葉。トゲ状のギザギザ(刺状鋸歯)がある。表面には光沢があり、葉柄は長く2～8cm



サルナシの樹皮。古くなると不規則にはがれる



サルナシの樹形



サルナシの樹形



サルナシの冬芽は、葉枕の中に隠れて見えない



サルナシの葉。光沢がある

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期			■									
結実期					■							

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

山地の道沿い、林道沿いの日当たりのよい林縁部に生育。
比較的肥沃な土壤に生育する。

分布：国外分布は、南千島、樺太、朝鮮、中国。国内分布は、日本各地。北海道内分布は、全域。
十勝地方生育状況は、全域。山林中。

繁殖生態・寿命

花は6～7月に開花し、実は9～10月に成熟する。鳥や動物によって種子分散する。寿命は不明

他生物との関わり

鳥などが好んで食べ、鳥や動物によって種子分散する。

植栽関係

挿し木または取り木による。挿し木は前年生の枝を20cmほどに切って挿す。雌雄異株なので注意する。

興味深い話

■果実を食用、ジャム、果実酒などに用いる。盆栽にも用いられる。

■十勝地方のアイヌ語では、果実を「クッチ」、ツルを「クッチブンカル」という。

■他の地方のアイヌ語では「シルクッチ」ともいう。生で食べるが余り食べ過ぎると肛門がかゆくなるといわれ、薬用には串にさして乾かしたものを煎じて飲むと利尿作用があるともいわれる。

■つるが丈夫で腐りにくいので、アイヌの人々は吊り橋の材料とした。果実は生食、果実酒。

■日高地方のアイヌ民族にこのツルで神の姿を編むと死にかけている人の魂を呼び戻せるという言い伝えがある。

配慮事項

挿し木が可能なので、幹や根株は利用可能。周囲に絡まる木や支柱が必要。条件が良ければ、つるは一年に数m伸びる場合もある。



花をつけたサルナシ。
サルナシの花には雄花と両生花がある

〔つる植物について〕植物で他のものに依存して高く伸びる形は、次のように分けられる。

1. 茎そのもので林木に巻き付いて登るもの チョウセンゴミシ、ツルウメモドキ、サルナシ、マタタビなど
2. 吸根（附着根）が林木に吸い付いて登るもの ツルアジサイ、イワガラミ、ツタなど
3. 巻きひげを林木に巻き付けて登るもの ヤマブドウ、ノブドウなど



つぼみをつけたサルナシ。

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・ワシントン) 鳥類
樹林類

参考文献

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978

「北海道樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「日本の野生植物 木本Ⅰ」佐竹義輔・原寛・亘理俊治・富成忠夫 編 平凡社 1989

「アイヌ民族博物館伝承記録 山川弘の伝承」(財)アイヌ民族博物館 (編集・発行) 1994